



発行者： 高崎康行

発行日：24年4月16日

第1号

つぶやき 1

「先生すごい！」と思わせるより「俺ってすごい！」と子どもに思わせる先生になるのが私の理想だが、「先生すごい」も嬉しいんだよねー。

私が教師になったとき、希望に溢れ「子ども達にたくさんのことを教えてあげたい。」
「子ども達と色々なことがやりたい。」と毎日、自分が楽しんでいました。しかし、教えているはずなのになかなか思っているほど学力は向上しませんでした。

反省：教師主体の授業（自己満足）

目標：子ども主体の授業（子どもが満足）

これではいけない。附属小等のように子どもがどんどん話して自分たちで解決する姿にあこがれてみるが、そうは問屋がおろさない。子ども達に答えて欲しいことがなかなか出ないと、教えたくなくなっちゃう。導くための、教育技術が不足していることが自分でわからない。自分で教えちゃったほうが、自分たちで解決する子どもの自主性を育てるより簡単だ？先生が話したいことを子どもに話させる。これは、準備と指導が容易でない。

つぶやき 2

「みんな違って、みんないい！」はずなのに、なぜか先生の見方によって変わってしまうことが多いんですね。

私が新採用で勤務した学校は、文部省（現在：文部科学省）の体力づくりの研究指定校でした。当時の教え子の一人が、大学（筑波大）になってから私のところに電話をくれました。「先生、私たちの小学校は、普通の小学校と違ってたよね。」「普通は、勉強のできる子がいわゆるよい子だけど、私たちの学校は、体育のできる子がよい子だったよね。」と言うような内容でした。「ドキッ！」としました。

反省：自分の望む行動をしている子はよい子に見える。

目標：授業、休み時間等であらゆる場面でその子の良さを探し、見えなかった良さを見つける。

教科、道徳、特別活動、外国語活動、休み時間、清掃等ありとあらゆる活動を見つめる中で、良さを見ていかないとそれぞれの良さを見逃してしまう。その子を伸ばす指導のきっかけを失うことになることを自覚したい。

今日のお話

※ もしも、あなたの目の前に、母親を父親に殺された7歳の男の子が立っていたとしたら、なんと声をかけますか？

マイケル・ボルダック著：目標を達成する技術

（どんな目標も達成できる「成功の心理学」）

マイケル・ボルダック：7歳のときに母親を父親に殺され、そのショックで言語障害になり、その後どん底の人生を送る。しかし、あるきっかけで自己改革を行い現在は世界トップクラスのコーチとして活躍中。